

発 刊 に よ せ て

社会福祉法人愛護会は、昨年 50 周年の節目を迎え、50 年の歩みを総括する機会に恵まれました。今まで積み上げて来た歴史を土台とし、社会福祉法人改革を受け新たな体制作りに取り組みながら、次の節目に向かい 51 年目の歩みを始めたところです。

愛育研究所を中心に進められてきております一人一研究は 2 年に 1 回公開研究発表大会に合わせて発刊して来た研究紀要が、今回 22 号となります。正に 44 年間も継続してきた研究と実践の在り方が、資質向上を図る愛護会の大きな財産として職員に定着してきた証であり、誇れる事と受け止めております。

さて、今回の研究内容もそれぞれの部会の課題を受け、一人一人がその課題にしっかりと立ち向かい、研究と実践を積み重ねながらまとめ上げて来ており、中身の濃い研究レポートになっております。保育部会からのレポートでは、保育の最も基本となる子供や保護者との信頼関係を築くために、また、子供の自主性を育てるために文献に学びながら様々な活動を仕組み、子供が自ら動き出す保育者の在り方を実践し成果を上げている内容等々であり、原点に立ち返りより質の高い保育を目指す姿勢を今後も持ち続けてほしいと考えます。

障がい者部会の大きな課題は、利用者の高齢化であり、地域の中で暮らす障がい者の高齢化に伴う課題も含め、即急に取り組まなければならない現状を踏まえ、その課題に迫る研究が始められていることに力強さを感じます。

開設してから 5 年目を迎えております地域密着型特別養護老人ホーム愛護苑からも今回初となります発表者が出てまいりました。レポートは、栄養基準の改定にともなう利用者の健康維持と管理という課題に対して、個々にデータを取りながら考察し、さらに研究を深め実践している内容であり、栄養基準に沿いながらも食を通じて利用者が満足し、健康を維持しながら日々充実した生活が送られるように常に配慮した食事の提供を心掛けている。その姿勢が、他の職員にも良い刺激になっていると考えられます。

社会福祉法人制度の改革が推し進められる中で、福祉サービスの供給体制を整える一番の要は、「人づくり」であると考えます。愛育研究所を中心とする研究体制の中でも一番大切な一人一研究のさらなる充実を図り、職員の資質向上をめざし、今後も日々精進してまいりたいと存じます。

2 年に一回の公開研究発表大会は、私たちの日頃の研究と実践を広く世に問い、多くの方々よりご意見ご指導をいただく絶好の機会と受け止めております。忌憚のないご指導を宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、研究に取り組んだ職員の皆様と研究紀要をまとめ上げ、発表に漕ぎ着けるために努力された事務局員の皆様、関係各位に心より御礼申し上げます、発刊にあたっての挨拶と致します。

平成 28 年 7 月

愛 育 研 究 所
所 長 及 川 紀 美 子